

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年3月1日

公表: 令和6年3月29日

事業所名 犬山市児童発達支援事業実施施設こすもす園 (職員数 10)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0	・予約制にして調整している ・人数が多い日は部屋を分ける準備をしている	
	2	職員の配置数は適切である	10	0	・利用人数が多い時は園長、主任も療育に入っている ・利用人数に合わせて職員の勤務を変更するなど対応している	・規定範囲内で療育を希望する利用者全員を受け入れる際、職員の対応に不満を感じられないよう、丁寧に療育を行うことを心掛ける
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	10	0	・バリアフリーではない場所でも使用しやすいように工夫している ・タオル掛けやオムツ入れ棚はトイレ前の空間に使いやすいよう導線を考えて設置している ・訓練士の顔写真は子の理解に合わせて部屋前に貼るなど工夫している	・スロープになっていない部分が今後の改善点である ・室内から戸外へ裸足のまま園庭に飛び出す子もいるため、導線にプランターを置くなどして安全面を考慮し、制止する工夫をする ・安全面の配慮が必要なケースは朝礼時に情報共有する
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	10	0	・子が安全に動けるよう危険な場所を作らない視点で見回っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	0	・職員会議の中でPDCAを意識した話し合いをしている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	・毎年行っている自己評価がその役割となり、保護者の意向を聞く機会としている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	0	・保護者向け自己評価、事業所向け自己評価の結果をホームページで公開している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	10	・外部評価は義務ではないため行っていないが、アンケートによりご要望に沿ったサービスを提供するための話し合いを行っている	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	・年2回療育支援研修会で助言を受けたことを療育に活かしている ・月1回勉強会を実施している ・講師や他施設職員と意見交換する機会がある	
適切か	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	10	0	・担当だけでなく、園長も計画立案に立ち会っている	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	0	・ガイドラインに基づき、子に合った目標設定や支援内容を保護者と懇談して決めている	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10	0		・職員全員が子一人一人の目標を把握できるように一覧を作成し、常に確認する

支援の提供		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	・いろいろな遊びを経験できるよう、遊びのレパートリーを増やしたい ・クラス担任同士で話し合っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0	・一日のプログラムは見通しが持てるよう固定しているが、活動内容は子の姿に合わせて工夫している	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10	0	・集団活動が利用人数によって難しい場合があるが、子の様子に合わせた計画を作成している	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	・毎朝必ず朝礼で確認している	
適切な支援の提供	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援を振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	・記録を書く時に情報共有をしている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	・記録用紙に備考欄を設け、気付いたことを連絡事項を記入している	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画に見直しの必要性を判断している	10	0	・実施している	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0	・児童発達支援管理責任者が参加し、担任との情報共有も行っている	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	0	・定期的に連絡を取り合っている ・必要な時は頻繁に連携を取っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	10	0		・医療との連携は行っていないが、保護者の意向を聞き、できる限りの支援を行う
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	10	0		・保護者に任せているが、必要に応じて連携していく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	0	・自園の研修会に声を掛け、支援の様子を知ってもらっている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	0	・個別的教育支援計画書「あゆみ」を作成し、移行先へ支援をつなげている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	0	・自園の研修会に声を掛けている ・ワークショップや意見交換会など実施している	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障がいのない子どもと活動する機会がある	10	0	・園交流、2歳児交流、リズム交流は大切な機会と捉え、計画実施した	・いろいろな子と交流できるように、身近な未来園で遊ぶ機会を増やすなどの計画を新たに立てる
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10	0	・園長が参加し職員に報告、共有している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	・子が頑張っていること、できたことを保護者と確認するようにしている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	10	0	・外部の講師による講演会で勉強できる機会は貴重であるため、いろいろな保護者に声を掛けている	・自園でプログラムを組んではいないが、ペアレントトレーニングを行っている機関の紹介を積極的に行っていく
	32	運営規程、利用者負担額等について丁寧な説明を行っている	10	0	・契約時に時間をかけて説明している	

	チェック項目	はい	いいえ		
保護者への説明責任等	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援と提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援の計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	0	・懇談時に子に合った支援を保護者と共に考え、同意を得ている	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	・一人一人に寄り添う支援を心掛けている	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	0	・2か月に1回保護者交流会を実施している ・OB会、OB交流会、保護者交流会などを積極的に行っている	・交流会への参加は保護者の自由であるが、悩んでいる方には情報収集する場として選択できるように声を掛ける
	36 子どもや保護者からの申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0		・保護者からの要望や申入れについて、改善できるところは職員全員で検討し対応していく
保護者への説明責任等	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0	・月1回園だよりと療育予定表を発行し、活動を発信している	・午後療育の発信方法について午前療育と同様にできるよう検討していく
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	10	0		
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	・個別の教育支援計画書「あゆみ」を支援ツールとして活用し、懇談を行っている	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	0	・行事に招待はしていないが、地域の子供達に園庭を開放し自由に利用できるようにしている ・毎月第3土曜日に園を開放し、支援が必要な子は誰でも利用できるようにしている	
非常時の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	0	・月1回実施している ・午後療育時は数か月に1回実施している	・毎月避難訓練を実施しているが、訓練日に登園していない親子へは園だよりで報告をするなど周知の方法を検討していく ・作業、理学、言語訓練士には定期的に対面や書面で知らせている
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	〃	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	10	0	・契約時に記入してもらうが、新たに発生した場合は個々に書き込んでもらう	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	10	・保護者に毎回確認している	・アレルギー対応が必要な子の情報は入園時から表に周知するなど全職員で把握する
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0		・情報の共有はしている ・新たな事例集の作成ができていないため作成する
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0		・外部の研修に参加し、全職員に復命している ・日ごろから話題に出し、風通しの良い職場作りを心掛けている
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了承を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	0	・母子通園施設のため、職員が身体拘束をすることはない	・保護者に説明、了承を得て行うことになっているが、現在において記載を必要とするケースはない ・必要な場合は計画に記載する

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。